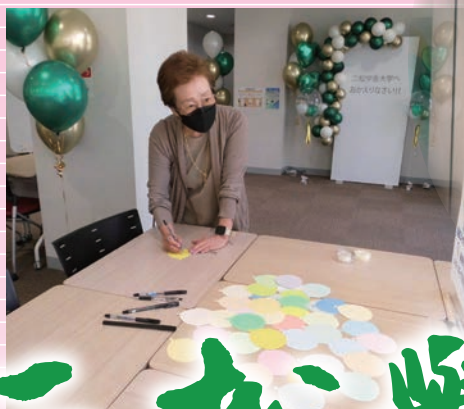
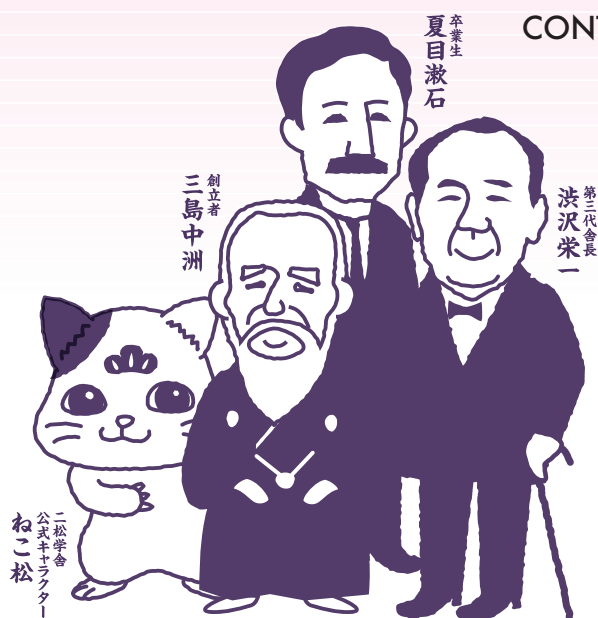




二松学舎 松苓会報

CONTENTS

- P2 卒業生の皆さんへ「最近年寄り」は 實事求是 II
- P4 松苓会支部長だより④ー東海・北陸・中部支部特集ー
- P7 言葉を力に 卒業生の出版図書
- P8 教壇を去られる先生方
- P9 【連載】吾輩推し言葉③
- P10 〈特別寄稿〉三つの縁に結ばれて 漱石 青春の日の岡山（後編）
- P11 卒業生だより
- P12 学生会員だより
- P14 寄付者芳名 ホームカミングデー開催
- P15 松苓会新三役紹介
- P16 表彰 第92期同期会説明会開催 事務局だより 訃報 編集後記



No.71 2024年3月15日
二松学舎大学同窓会広報誌

2022年10月に145周年を迎えました
145th
anniversary
since 1877

卒業生の皆さんへ「最近年寄り」は

二松學舎松苓会会長 平野 光治 (40文)



答えて席に座った。

若い人が優先席に座っていた。前に立ったお年寄りが「若者よ、ここは優先席だ。」と声をかけた。若者は動揺しながらも冷静に「座られますか。」と尋ねた。「おう。」と

私は腹が立った。優先席だから自分が座るのは当然である的態度が許せなかった。この人はどんな生き方をしていたのだろう。何を学んできたのだらう。疲れて座りたいのなら、学んだ知恵で「疲れていますので席を譲っていただけないでしょうか。」となぜ言えないのでしょうか。「ありがとう。」が言えないなんて。友人に話すと「そんな人は話してもわからない。若い時

に席を譲らず座っていたのだから。」と二刀両断に切り捨てた。

「最近の若者は」という言葉が頻繁に使われた時代はそんなに昔のことではない。私が思った「最近の年寄り」と同じで、発想に誤りがあることにあらためて気が付いた。人はそれぞれ。ある一人の行動が全ての若者や年寄りの姿ではない。ならば、「みんなやっているから」という言葉を遣うべきではない。「みんながやっている」や「そう言われたから」は言い訳である。自分の責任を覆い隠す。誤りに気づき、反省し、今後の自分の生き方に生かす気持ち

ちを弱めてしまう。あれこれ言っても、最後は自分が行ったのだと自覚するべきである。人は人柄。人はそれぞれなのだから。

コロナで楽しい大学生活の半分以上を失った卒業生の皆さんだからこそできることがある。だからこそ学んだ事がある。皆さん一人ひとりにできることがあると考えてほしい。それを信じてほしい。だからこそ、自分の行動に責任を持つてほしい。

第92期卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。自分の人生を自分の意志で歩まれることを願います。

實事求是 II



二松學舎松苓会副会長 金井 康 (41文・院博10文)

文化庁は「国語に関する世論調査」を行っている。言葉の使われ方の変化も調べている。その立場を、「言葉は変化する。あくまで本来の意味や言い方との比較で、正しいか間違いかではない。」と説明する。「言葉に関する問答集」第1集(昭和50年)から変わらぬ姿勢ではある。

時のすさびに和田竜著『村上海賊の娘』を読んでいて、違和感を抱いた。

◇「めっそうもござりませぬ」急いで平伏した。：第一章12

◇景を真っ直ぐ見つめ、「めっそうもござりませぬ。恐れながら」：第一章18
「めっそうもない」を「め

っそうもござりませぬ」としたのは海賊の言だからではない。作家の言語感覚であり、言語認識である。

長らく都心の私立高校で国語を教えてきた。「本来の表現を不正解とし、変化後を正解とする」過誤の有無を自問する。変化する言葉への認識が浅いと、黒を白と教えること

になりかねない。無知は罪悪だと言つてよい。恥ずかしげもなく嘘を教えたくはない。

定年後も五つの高校に勤めたが、気がかりな言葉遣いがどの職員室でも聞こえてきた。感謝され陳謝された際の返礼語「とんでもない。」を、「とんでもございません。」と使い、丁寧表現の極みのように連発する教員が増えた。国語の教員も然り、が現実だ。

彼らは添削で、「とんでもございません。」を正解とし、「とんでもない。」は不正解とするのだろうか。せめて、「とんでもない。」「とんでもないことです。」を本来とし、蔓延する「とんでもありません。」「とんでもございません。」は派生と認識する教員であつて欲しい。

かつて、打消の助動詞は「ず」が用いられていた。関東方言の「ない」が日の目を見たのは明治になってからのことで、日が浅い。存在を打ち消す「あらず」は、「あらぬ」は遣つたものの、「あらぬ」ではなく「ありません」「ご

ざいません」が定着した。しかも、打消の助動詞「ない」は新たな問題の芽も孕んでいた。学校での文法理解は、「言い切りの形が『○○い』となる自立語を形容詞と呼び、ク活用とシク活用がある」で止まっていたのが実状だ。未然形に接続する助動詞「ない」は識別しても、接尾語「ない」の存在は忘れられていた。国語辞典でも、見出し語にその扱いが載らないものさえある。

形容詞「○○ない」には、「○○ある」との言い換えが可能なもの、全く不可能なものがある。その峻別を現代語では曖昧にさせたようだ。丁寧表現の使用が過剰となった現代世相の反映かもしれない。

「きたない」を「きたある」とは言わない。対義語は「清い」である。「せつない」も「せつある」とは言わない。又、「せわしない」は「せわしい」の対義語ではない。どちらも、落ち着かない・せかせかしている・忙しい等の意を持つ。「いとけし」と「いとけなし」の関係も亦、然り。いずれも、

「○○ある」とは言い換えられない。同じく「○○ぬ」とも言い換えられない。存在を否定する「○○ない」ではないからだ。

「とんでもない」は、「せわしない」「せつない」「きたない」「いぎたない」「かたじけない」「あつけない」「いとけない」「とつびようしもない」「めっそうもない」など、同じ接尾語を共有する形容詞の一群に属する。「○○ある」とも「○○ぬ」とも言い換えられぬ語群である。様子や心地が著しい意を添える接尾語「ない」は、多く性質・状態を表す語に下接するが、上接の語意に「とても」「極めて」「至って」「甚だしく」「この上もなく」「まことに」など、強意・強調の意を加えて、初めてその語義は成立する。「きたなし（北・堅塩）」は『竹取』に用例を見る。諸説あるが、「さがなし」は「さがし（嶮岨）」と同根であると言う。接尾語「なし」の歴史は古い。

それはさておき、『完訳論

語』の井波律子訳『水滸伝』にも具体例がある。兎とり獵師の李吉が、大郎史進に「わしに銭がないとバカにしているのか」と怒鳴りつけられた場面。

◇「とんでもありません！ このごろ獲物がありません！ ので、」…第二回

「とんでもない！ このごろ獲物がありませんので、」で十分な表現である。言語感覚に秀でた井波律子でも「とんでもありません！」を用いている。穿てば、言葉遣いも知らぬ獵師の雑言として敢えて「とんでもありません！」を使つたか。さては、海賊の言「めっそうもござりませぬ。」も和田竜に同様の意図があつたか。

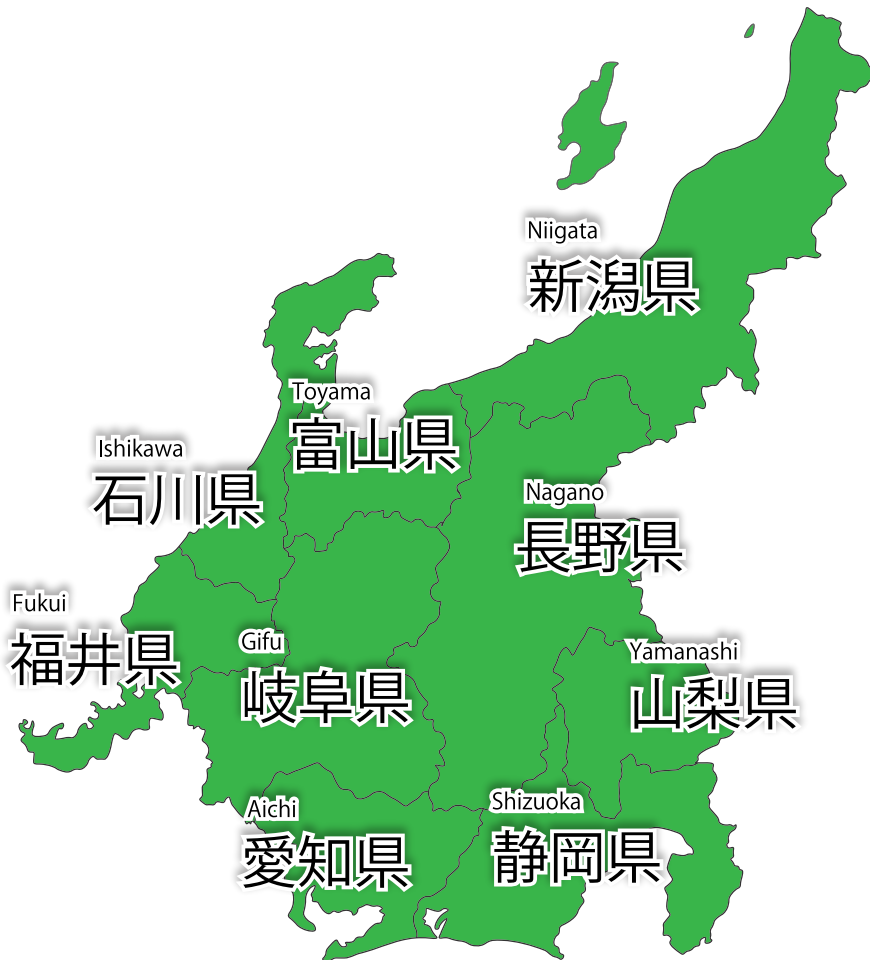
生徒が書いた「とんでもない。」を、「とんでもございませぬ。」と書き改めるがとき教員にはなりたくないものだ。言語感覚は、「とんでもない。」の方が確かである。

海賊の言も、「めっそうもないことござります。」なら、この一文は生まなかつた。

連載

松苓会支部長だより④

— 東海・北陸・中部支部特集 —



※今回、都合により山梨県支部長の
原稿の記載はございません。

愛知県支部

「懐古」

支部長 松田博文（55文）



愛知県支部
長の松田で
す。今年還暦
を迎えるにあ
たり、学生時代をよく振り返
るようにしました。

決して真面目な学生生活では
ありませんでしたが、たく
さんの出会いと刺激があつ
て、現在、高校教師を続けて
いられる礎を築いてくれた
日々であったと感慨を新たに
しています。

そんな思いもあり、昨年11
月に卒業以来の同窓会を38年
の時間を経て催しました。近
代的に変わった九段校舎に20
名余が集い、昔話に花を咲か
せ神楽坂で杯を交わし濃密な
時間を過ごしました。

人生百年時代と言います
が、少しでも健康寿命を延ば
し、次世代に人として大切な
誠実に生きることを伝えてい
きたいです。日々を丁寧に通
しながら、利他の心で生き

静岡県支部

中洲先生との縁深い沼津市

支部長 江本浩二（51文）



「学生時代
の思い出を」
と寄稿の依頼
をいただき、

約40年前を振り返りました
が、部活動と遊びに明け暮れ
た日々のことばかりが思い出
され、学びの記憶はほとんど
ありません。そんな中で、中
洲詩文の授業中に突然、故郷
の静岡県沼津市にかかわる地
名が聞こえてきて、「えっ、
ナニ？」と目覚めたことは今
でもよく覚えています。

私が住む沼津市には、大
正天皇の静養のために造営
された御用邸がありました。
1969年（昭和44年）に廃
止され、現在は沼津御用邸記
念公園として、市民の憩いの

ていければと考えています。
最後に、能登地方のいち早
い復興を祈ると共に、罹災者
の皆様へのお見舞いを申し上
げます。

場となっています。

二松学舎の創設者である三島中洲先生が東宮侍講、宮内省御用掛として幾度か来沼されていたことや、沼津の山河を題材に多くの詩文を遺されていることを知りました。

しかし、私が知っているのはここまで。なぜあの時もつとすっかり学ばなかったのか。今となつては後悔ばかりですが、改めてちゃんと学び直したいと考えています。

岐阜県支部

二松学舎で過ごした日々

支部長 竹内秀人（55文）



「今日から大学生かあ！期待と不安に胸を膨らませ

ながら、二松学舎の門をくぐった頃が懐かしい。大学の講義は、どれも専門的なものばかりで、将来、国語科の教員を目指していた私にとって、どの講義も興味深いものばかりであった。

部活動は、「今まで経験し

たことがないものに挑戦しよう」ということで、混声合唱団「コールエコーズ」に所属した。それまで運動系の部活動にしか身を置いてこなかった私にとっては、文化系の部活動に入ることは大冒険に近いものがあつた。しかし、歌うことは元々嫌いではなかったし、エコーズの奏でる素敵なハーモニーに魅せられ入部を決めた。

実際、入部してみると優しい先輩方に囲まれ、懇切丁寧な手ほどきを受け、歌うことの楽しさや難しさを教えていただいた。卒業までの4年間という短い期間ではあつたが、ハーモニーを奏でる醍醐味は、日々の練習はもちろんのこと、定期演奏会や他大学との合同演奏会のステージ発表などで十分味わうことができた。日々の練習の成果が本番のステージで発揮される経験を通して、「仲間の大切さ」「努力することの大切さ」を身をもって学んだ。そんな経験が、今の自分の教職の仕事に生かされているように思う。

二松学舎で過ごした4年間が、とても懐かしく、愛おしい。

福井県支部

今後のふるさとを思う

支部長 中道佳宏（58文）



約40年前、ここ福井県小浜市から千葉県柏市、そして

東京都中野区へ転居した。それまではほとんど電車に乗る機会がなく、慣れない都会で数分おきにやってくる電車の驚きを感じたことをつい昨日のように思い出す。

私のふるさと小浜は、一時間に一本の電車が通るような田舎町で、JR西日本の小浜線というローカル線が走っている。大学時代は、往復の交通費がもったいなくて、そう度たび小浜に帰ってくることもなかった。そのため帰省時は小浜線の車窓から見渡す限り広がる田園や日本海の景観に何とも言えない郷愁を強く感じていた。

同じ福井県にある福井市や

敦賀市には今春北陸新幹線が開通する。敦賀―東京間は、最短3時間8分と言われている。私が大学生だった頃は、東京に出るために東海道新幹線を使って半日近くかかった。将来、北陸新幹線が小浜を通り、京都や大阪につながる時代になれば、比べものにならないくらい便利になり、約40年前に感じた「ふるさとへの想い」を感じることも難しい時代になるのかもしれない。何はともあれ、社会は着実に便利になっていく。不便であった時代も懐かしい。

富山県支部

「出逢い」

支部長 小島貴雄（47文）



『文学をどう読むか』佐古純一郎著（現代教養文庫）1958年。一冊の本との邂逅が、これほどまでに人生を方向付けるものになるとは、不可思議なものである。

高校2年生の時、たまたま書店の棚に並べられていた本を手にし、文学の神髄に触れたかの思いで、吸い込まれるようにして読みふけた。

是非とも先生の薫陶を受けたいと思い、本学への進学を志望。文学青年気取りの若者は、偶然にも推薦入試の面接の際に先生と初めて出逢い、学習不足によるそれまでの認識の甘さを痛感させられ打ちのめされたのである。

2年次からは先生のゼミナールでの受講が許され、3・4年生と共に教えを請い、後輩のゼミにもお邪魔させて頂いた。

大変迷惑な学生であつたと思われる。より多くの若者と文学を堪能したいという高らかな目標のもとに、地元富山県で教職に就くことを決めた。卒業に際し、先生から頂いた言葉が、聖書の一節にある『喜ぶ者と共に喜び泣く者と共に泣け』。座右の銘であり、今も多くの方々との出逢いの際に心掛けていることである。

1973年3月、先生の還暦を記念し、主として卒業を控えたゼミ生を対象に「還暦記念講演会」を企画した。その折にお話し頂いた内容をまとめたものが、『私の出会い』佐古純一郎著（審美社1979年）である。

新潟県支部

新潟県の状況について

支部長 坂井福作（42文）



「甲辰」の元日に発生した能登半島地震でお亡くなりになられた皆様に心から哀悼の意を表し、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。新潟県も多くの家屋に被害が出ています。新潟市では液状化による被害が拡大しています。

本県は、今までに私の知る限りでもいくつかの地震に見舞われています。昭和39年（60年前）、新潟国体が開催されたあとに発生した「新潟地震」では、昭和大橋が壊れ、

市内で液状化現象がみられました。

平成16年（20年前）の「中越地震」では、山古志村の全村避難がニュースになりました。

そして平成19年の「中越沖地震」では、勤務する学校（柏崎翔洋中等教育学校）が避難所になり、陸上自衛隊がグラウンドに駐屯しました。私も一か月あまり校長室で寝泊まりをして対応しました。

東日本大震災では、福島県から生徒が転入してきました。今回の能登半島地震においても、新潟市を中心に多大な被害が出ています。

まだまだ被災地では余震もあり、佐渡沖を震源とする地震が起きるのではないかと言われています。地震の直後でありますので、なかなか皆で集まることは簡単ではないと思いますが、幹事と協議して総会を開きたいと考えています。

長野県支部

三島中洲先生と

碑文について

支部長 清水 登（42文）



『信濃碑文目録』（市川本太郎・市川文庫・昭和40年）に、明治14年5月建立とされる高遠公園碑（所在地・現伊那市高遠城址公園）が紹介されており、従六位三島毅撰文、陸軍中将勲一等嘉彰親王題額、一等編修官従五位巖谷修書とあり、碑文には高遠公園周辺が山や川に取り囲まれた要害の地であること、戦国武将の仁科五郎信盛及び高遠藩主の内藤氏のことについて記されています。

同書に、明治14年8月建立とされる高島公園碑（所在地・諏訪市高島公園）が紹介されており、従六位三島毅撰、従五位長茂《三洲》書、右大臣従一位勲一等岩倉友視篆額とあり、碑文には高島藩主の先祖、諏訪盛重及び頼忠のこと、東に街並み、西に湖、



南に崖があるなど、公園周辺について記されています。

また、同書に、大正4年4月建立とされる藤城山室先生之碑（所在地・佐久市岩村田城跡）が紹介されており、正二位勲一等伯爵土方久元篆額、従三位勲二等文学博士三島毅撰、五江漁史三恵円爾書とあり、碑文には山室（文久2年―大正3年）の諱は茂次郎、号は藤城、浦和中学、上田中学野沢支校、鳥取中学、魚津中学等の教員を歴任し、魚津で病没、享年五十三と記されています。

長野県内の多くの碑文に三島中洲先生が関わられていたことが窺えます。

石川県の菅野成也支部長（50文）は学校に勤務をされています。原稿依頼をしておりましたが、今回の能登半島地震のために、生徒の安否確認をはじめ、学校・生徒の対応に追われておいでですので、次回、また生活が落ち着きましたら、皆様宛に原稿を書いて戴きたく存じます。ご理解の程、宜しくお願い致します。

言葉を力に

片山聖英（50文）

一月一日、夕方四時十分。

石川県珠洲市を震源とするM7.0の地震が発生。甚大な被害により日常が奪われて不自由な生活を強いられている方々にお見舞いを申し上げます。

特に活断層の隆起が大きく、原発がなくてよかったと胸を撫で下したとも伺っている。

私は以前、能登半島最先端に位置する緑剛埼灯台（珠洲市）まで歩いたことがある。晴れ渡った夏の陽差しの中で立山連峰や佐渡島まで望める風景に強く感動した。そして山口誓子の句碑に頷いた。

ひぐらしが

鳴く奥能登の

ゆきどまり

伝統的な金沢の街並みをはじめ、輪島の朝市や千里浜海岸など思い出深いものであった。その景色が復興されることを望むが、今は一刻も早く、皆さんの日常がまず戻ることを切に祈っている。

政府の地震本部の公表する

「全国地震動予測地図」を確認した。すぐ目につくのは南海トラフ地震の重危険度を示す地域で「紫色」で示されている。石川県は大部分が0.1%～3%で発生確率は低く「黄色」で示されている。

珠洲市に原発を作る計画があり、住民との反対闘争の末、断念されたという。

地震大国日本。海岸近くに原発を作ることは一考を要するだろう。海に囲まれた日本の漁業を蔑ろにしてはならないのだ。日本という国の個性を活かすべきなのである。

我々にできることはないかと思っていたとき、金沢市観光協会の桑原計彦氏と知り合った。この方は皆さんからの応援メッセージを集めて被災地に届けていたのだ。つまり我々の言葉を力に換えるべく手助けをされているのであった。

私たちの言葉でも積み重ねることによって、被災地の方を勇気づける力となるなら、集めてお届けしたいと思う。皆様もご協力ください。

卒業生の出版図書

鈴木和大人（83文）

『中世前期説話文学の研究』

和泉書院

10,450円（税込）

2024年2月10日刊

本書は、

2020年



度に提出した博士論文

をもとに、新たに二篇を加えて一書とした論文集である。

第一部では『宇治拾遺物語』の和歌説話や盗人説話などについて、第二部では『古事談』を取り上げ、通説であった『今鏡』との直接関係説を否定するなど、中世に成立した説話集と個々の説話が抱える問題について、史実と伝承を検証しながら考察を加えた。

筆者の恩師である磯水絵先生のゼミナールで得た学びを礎とし、こうして一冊にまとめられたことを会員の皆様にご報告すると共に、これまで関わってくれたすべての方々、にこの場を借りて感謝を申し上げます。

（著者）

教壇を去られる先生方

僥倖

文学部教授 林謙太郎



当たり前の生活が揺さぶられるような新型コロナウイルスが落ち着いてきたかと思ったら、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスの戦争が始まって、その惨状が連日報道されています。何とかならないものでしょうか。私の親の世代は、戦争に駆り出された戦中派で、日本の負の遺産を直接聞かされてきました。いつも馬鹿を見るのは、末端の人々です。私の世代は幸い、平和な時代を生きてこれました。感謝しなければならぬでしょう。

私は、本学着任以来、一貫して「日本語教員養成コース」関連科目を担当させていたいただきました。日本語教員の仕事は、日本と外国との懸け橋になるような人材を養成することです。そのためには、常に「外から見る視点」を忘れないようにする必要があります。

部活動の顧問は旅行研究会と茶道部。茶道部は、松田存先生から引き継ぎました。合

宿等を通して徳岡めぐみ先生の御指導に接し、「和敬清寂」を宗とする茶道の奥深さを体験できたことは有難いことでした。

元より浅学菲才の身、皆さまのサポートのおかげと心より感謝申し上げる次第です。

いくつもの壁を乗り越えて

文学部教授 増田裕美子



新卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私もこの3月

で定年退職します。

私が二松学舎大学に専任講師として就職したのは、平成元年の4月です。その頃は社会状況も大学の様子も今とは随分異なっていました。今では女性が働くのは当たり前ですが、当時は専業主婦になるのが普通で、働く女性にとって家事・育児の負担は大きなものでした。私も一人で家事・育児を担っていたので大変でしたが、若かったので何とか乗り越えてきました。その後病氣もして授業を何とかこなす日々が続いたこともありました。ほかに苦しいことは多々ありましたが、働き続け

ることは私の存在証明でもありました。

転機になったのは17年前に日欧米比較文学文化ゼミを持ったことです。夏目漱石の作品をシェイクスピアの作品と合わせて読むゼミで、ゼミ生と繰り返し作品を読み続けたことが私にとって大きな力となりました。漱石が『私の個人主義』で述べている言葉を借りれば、「ああ此処におれの進むべき道があった！ 漸く掘り当てた！」ということでした。皆さんも様々な壁を乗り越えて、「自分の鶴嘴で掘り当てる所まで進んで行かなくては行けない」という漱石の言葉を是非実践してください。

国漢の二松学舎で

理論物理学研究

国際政治経済学部教授 岩崎愛一



36年前辞令交付の時、九段にあった木造の古い校舎の一室で池田

松郎理事長からだひと言「良い研究をして二松学舎大学の名前を高めてください」とだけ言われた時、ほっとすると同時に素晴らしい大学に赴任したと思った。実は「研究よ

りは教育を」となるのではと怯えていた。以降、教育者としては褒められたものではなかったが、研究者としては、思う存分研究に専念できた。赴任当時、物理学会の座長から「にまつ」学舎、「ふたまつ」学舎と紹介されたが、それも1, 2年ですぐに「にしよう」学舎と呼ばれるようになった。科学の世界では無名の大学であった。それが、2017年のイギリスの著名な科学雑誌「New Scientist」に私の研究が紹介され、その記事がスペイン語、ドイツ語、ロシア語等の主要な言語に訳され、Zishogakusha の名前が世界に知られることになった。院生指導もなく、文学でも、政治経済でもない研究に集中できたことは、この大学の懐の深さによるものと感謝している。少子化で危惧される大学経営だがこの包容力があれば、これからも優秀な教員や学生を引き付けていくでしょう。二松学舎大学のますますの発展を陰ながら祈念しております。

なお、現在でも「New Scientist」の記事は読めます。

<https://www.newscientist.com/article/2142527-fast-radio-bursts-may-be-dark-matter-stars-hitting-black-holes/>



吾輩、推し言葉

「殺身成仁」

三島中洲書（大正7年）

③



附属図書

館（柏）内

に掲げられて
いるこの
文字を知る

卒業生も多
いと思う。

この書は
亡くなる前
年、89歳の

作とは信じ
難い。大ら

かな気韻と
峻厳な覚悟

を感じる不

思議な書である。拡大しても

縮小してもその風韻は変わら

ぬ書である。しかも驚くこと

に60代、病のため右手が不自

由になり、それ以降の左手の

作と聞き及んでいる。

これは『論語』衛霊公第15

にある孔子の言葉で全文を示

す。

子曰、志士仁人、無求生以

害仁。有殺身以成仁。

（子曰く、志士仁人は、生
を求めて以て仁を害すること
無し。身を殺して以て仁を成
すこと有り。）

（志のある人や仁徳のある
人は、命惜しさに仁を損なう
ことはない。わが身を棄てて
仁を成し遂げることもある。）

沖縄修学旅行で聞いた話を
思い出す。ガマ（天然の洞窟）
に米軍の手榴弾が投げ込まれ

る。すると、誰かがそれを腹
に抱え込んで身代わりになる

と。沖縄戦の惨状が伝わると
ともに、人間の尊厳に背筋が

伸びる。理屈ではないのだ。
人はわが身を犠牲にして他者
の命を守るのである。

附属高校に勤めていたころ、
担当した『論語』の3年間の
まとめはクラスメイトの前の
発表となる。附属高校オリジ

ナルテキストにはない、この
章句を選んだ生徒がいた。

匈奴との戦いに敗れて投降した漢の武将・李陵に対し、武帝が
厳罰を下そうとした時、司馬遷は李陵を弁護した。武帝は激怒。
——司馬遷は宮刑に処せられた。

「志士仁人」のことばがカ
ッコ良く、「身を殺して仁を
成す」生き方に強く惹かれる
：、と訥々と発表してくれた
姿を今も時折、思い出す。

「仁」は仁愛、仁義、仁慈
の熟語があるように『他者に
対する思いやり』である。つ
まり『まごころ』の発現である。
私心のない情の発露である。

孔子は周の武王が殷の紂王
を討とうとするのを諫め、首
陽山に隠れ住み、餓死した「伯
夷、叔齊」を、仁者として顕
彰した。孔子の徒を任ずる前
漢の歴史家・

司馬遷の『史
記』の「列伝」
は「伯夷列伝」
から始まる。

司馬遷がこ
の高潔の仁者
を採り上げた
のには必然性
がある。李陵
事件である。



千葉、柏キャンパスの附属図書館内
壁面に掲げられている。

家永 修（44文）

受刑後、発奮。『史記』の著
述に専心するのである。「天道
は是か非か」（天道は善人に
味方し悪人を罰するか、そう
ではないか）を命題に人間の
生き方を凝視したのである。
利己心と承認欲求を乗り越え、
「仁を成すは己に依る」と（吾
人も切に念う）。孔子を師と
仰いだのは、顔回や司馬遷
だけではない。

特別寄稿

三つの縁に結ばれて

漱石 青春の日の岡山（後編）

片山 由子（47文）



川面に揺れる恋心

（明治25年 兄嫁の実家から戻った漱石は――）

読書にも身が入らず、夕暮れ時に一人旭川畔で風に吹かれながら、登世のことを思うともなく思い出していると、身重の彼女を抱いて階段を上り下りした時の感触がふいに腕に蘇り、体の奥がかつと熱くなる……登世をどんなに大事に思っていたかが、今改めてわかる気がした。残照に染まっていた川面はやがて紺を流したようになり、川音がし

だいに高く響いて、ふうっと引き込まれそうになる――

Incessant is the change of water the stream glides on calmly: the spray appears over a cataract, yet vanishes without a moment's delay.

Such is the fate of men in the world and of the houses in which they live.

音もなく流れてゆく水の変化は絶え間なく、飛沫は奔流の上に現れて一刻の猶予もなく消えてゆく。

それは、この世に生きる人間のさだめ、人々が営む家のさだめとして同じこと。

（筆者訳）

半年ほど前に、外国人教授の依頼で英訳した『方丈記』の冒頭が思わず口をついて出た。母、二人の兄、兄嫁と、愛する人が次々に逝ったことを思うと、厭世的な気分にと

らわれそうであった。

憂いを払う大惨事

漱石のこんな憂愁を一瞬にして吹き飛ばす騒動が起こった。7月23日から翌日にかけて岡山地方は大洪水に見舞われ、三大河が氾濫。死者74人、流水破壊家屋5500戸、床上浸水2万5500戸の大惨事となった。片岡家でも床上1・5メートルの浸水。同家と懇意な市会議長・光藤亀吉宅へ漱石を避難させた。彼が迎えられた離れ座敷は、後に魚峰、利久という料理屋が借りていた時期もあったが、戦災で焼失するまで光藤家では漱石滞在の部屋として大切に保存していたという。

一週間ばかり世話になって片岡家へ戻ってみると、床や壁は落ち、床下一面の泥で気をつけて歩かないと、縁の下へ落ちる有様。そんな所に四斗樽を置き畳を並べて客間兼寝室とし、浮き出た戸棚を運び、まわりに腰掛けや破れた机を並べて食堂としてなんとか暮らした。

洪水から10日余りして、ようやく出た子規への手紙には、「当地にても前代未聞の洪水を東京より見物に來たと思えば大いに愉快なる事ながら」と前置きして、「まるで古寺か妖怪屋敷と言うもなお形容し難き」惨状を述べた後に、

「それでも5日が一週間となるに従い、この野蛮な境遇に慣れてさのみ苦とも思わず、おかしきものなり。（略）こういう場合に当方に厄介になるのも気の毒ゆえ、先日より帰京しようと致したところ、今少し落ち着くまでは非逗留の上ゆつくり帰宅せよとひきとめられたのだけれども、こちらは先方へ気の毒、先方ではこちらへ気の毒と、気の毒と気の毒の鉢合わせ、発矢面目玉をつぶすという訳。御憫笑くだされ。（略）

実に今回の水は驚いたような、面白いような、怖いような、苦しいような種々な原素を含み、岡山の大洪水また平凸凹一生の大波瀾と言うべし。しかし余波が長くて今



桜の頃 母と弟と千鳥ヶ淵にて

に乞食同様の生活を為すは少し閉口。石関の堤防をせき留めるやいなや、小生肛門の土堤が破れて黄水汎濫には恐れ入る」

と記している。

「平凸凹」とは、幼い時の疱瘡（天然痘）のせいであばたが残っていたことに由来する漱石の戯号。平にして凸凹としゃべっているわけであるが、これにとどまらず、書面全体に洒脱、滑稽味にあふれ、漱石のデビュー作『吾輩は猫である』（明治38年）の片鱗をうかがわせる。

そして若い故に怖れず、惨事をも面白がる青年漱石の生き生きとした姿を彷彿させよう。

洪水のあと松山へ

岡山滞在の後半は洪水騒ぎに取り紛れて、是非にと願っていた閑谷いさたに訪問は果たせないまま、子規の待つ松山へ向かうことになる。

閑谷いさたには、その全容の立派さを熊本藩横井小楠が「幕府の湯島聖堂の他には、天下にこのように壮麗な学校はあるまい」と記すほどにその名声は早くから全国に広まり、他領から大鳥圭介や西周あまのしほが入学し、菅茶山や頼山陽らんやうが碩学の徒が来遊した名門校。漱石もあこがれ、訪問を楽しみにしていたのであった。

希望が叶わず心残りではあるものの、偶然遭遇した洪水が、胸中の鬱屈や厭世感をも押し流してくれたよううで、不思議とさばさばした気持ちであった。

こうして、一カ月ばかりの岡山滞在が終わる——漱石25歳、青春の日の1ページである。

卒業生だより

何とかあります

岩崎 聡（51文）



「岩崎君、あんたハンドボールで給料貰うとるが、

ないげんぞ。国語の教師として給料貰うとるげんぞ。」（いきなりの金沢弁、失礼しました。——君はハンドボールで給料貰うとるわけじゃないんだぞ。国語の教師として給料貰うとるんだぞ。）これは初任校で国語科の大先輩に叱責された時の言葉です。

二松学舎を卒業、故郷金沢の中学校に赴任、専門外のハンドボール部顧問になり、「ハンド」に填り、「部活浸け」の日々。男子ハンドボール部は、北信越大会3位（あと一歩で全国大会）等の成果も上げることが出来ました。ハンド卒業生とは今も痛飲、過日は、コロナ禍で延期されていた「定年祝いの会」も主催してくれました。

さて、国語教師としては：現在64歳、再任用で授業を行っているが、「何を教えればいいのか？ わからない。」というのが本音です。自身のキャラクターを前面に押し出し、ハツタリとカリスマで乗り切る40年間。とは言え、教え子たちの国語力が低いということもなく、多分「問題国語教師」のレッテルも貼られてはいません。：が、本音は本音です。（後輩諸君！ 何とかあります。）

取り敢えず、学級担任、生徒指導担当として、力を発揮したという自負はあるので、教師向きなのでしょう。

10年目に千葉県に移ってからは専門の柔道部（二松学舎大柔道部出身）を持ち、男女団体戦で全国大会出場、男子個人戦では全国大会優勝者を輩出することが出来ました。本当に幸福な教員生活を送ってきましたし、今も継続中であるのは間違いなしです。

学生会員だより

「創縁祭2023」開催

文学部2年 竹石翔馬

11月2日(木)、3日(金・祝)に「創縁祭2023」を開催いたしました。今年も、全面対面で開催することができ、学園祭実行委員会役員一同嬉しく思っております。

また今年は4年ぶりとなる模擬店を出店。もちろん、多くの方々に喜んでいただくことができ、学園祭実行委員会役員一同併せて喜んでおります。

創縁祭2023では、各団体や各ゼミナールの発表を来



場者の皆様に直接見ていただくことができました。参加団体の皆様からは、「今年の創縁祭も対面開催であったので、大変嬉しかった」「日頃の活動内容を来場者の方々に披露することができ、とても楽しかった」「模擬店を出店で、青春を思い返すことができた」等、創縁祭を対面開催で行えたことや、多くの来場者にお越しいただいたこと、模擬店を開催できた喜び等の様々なお声をいただきました。

来場者の皆様からは、「二松学舎らしい発表を今年も見ることができて良かった」「模擬店が出店されており美味しいものを沢山食べることができた」「若者の元気なパワーをもらえた」等の心温まるお言葉をいただくことができ、役員一同、大変嬉しく思っております。参加して下さった皆様や、お越しいただいた来場者の皆様、創縁祭開催に力添えをしていただきました皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルスが収縮

していく状況下で、どうにか模擬店を出店できないか、

模擬店の出店方法をどのようにするかを役員一同で何度も会議を重ね、大学とも話し合



合って検討していききました。模擬店を出店することができると決まったときは役員一同、出店できる嬉しさと4年ぶりの出店という不安さがありました。しかし、皆で一致団結したことにより模擬店を無事に出店し、成功を納めることができました。

私は委員長として歴代の先輩方が作り上げてきた創縁祭を、盛り上げるためにはどうするべきか、模擬店の出店を安全に行うにはどのようなすればいいのかをずっと悩んでおりました。しかし、頼りになる先輩・同期・後輩と話し合いを重ねるにつれて、どんな不安や悩みが解消されて

いきました。頼れる仲間達と共に悩み、共に喜ぶという素晴らしい経験ができ、とても嬉しく思います。こころで、こんな僕についてきてくれた、頼れる強い仲間たちには、感謝の気持ちしかありません。多くの人々のお力添えにより今回、創縁祭を開催出来たと思っております。

今年初めて、学生会執行委員会の会長並びに、学園祭実行委員会の委員長を務めさせていただけたこととても嬉しく思っております。普段では、経験することがない、出来事が沢山あり、とても貴重で忙しい1年になりました。これまで、私にお力添えをしてくださった皆様、大変お世話になりました。今後の学生会執行委員会、学園祭実行委員会がどのような形になっていくかはわかりませんが、さらにより良いものにしていきたいと思えます。今後の学生会執行委員会並びに、学園祭実行委員会を何卒よろしくお願いいたします。

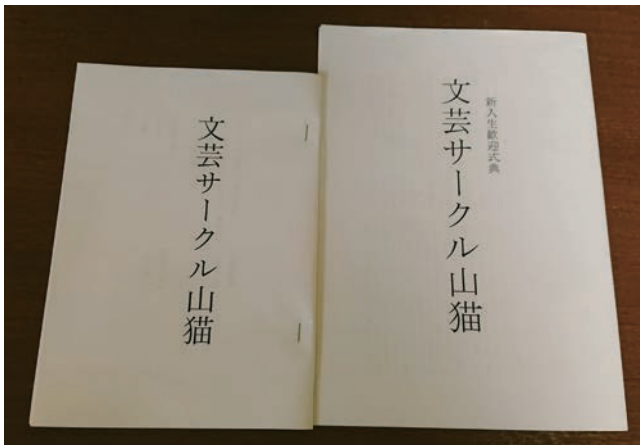
(学園祭実行委員会 委員長)

文芸サークル山猫

文学部3年 塙 知紗

こんにちは。私たちは二松学舎大学文芸サークル山猫です。九段祭POPや創縁祭などの学内のイベントに積極的に参加し、そのイベントに向けて年に数回部誌を制作、配布しています。

文芸サークル山猫の部員が執筆する作品の内容は人それぞれです。小説を書く部員はもちろん、三題噺（ランダムに出された3つのお題を作品



同人誌「文芸サークル山猫」

内に入れて書くこと）を書く部員、詩を書く部員など、それぞれが自由に執筆しています。さらに、絵本の執筆も現在計画しています。

今までは学内のイベントに参加することがメインの活動となつていますが、今後は部員が集まる機会を増やすなど、精力的に活動していきたいと考えています。

文芸サークル山猫では、一緒に作品を執筆する人をいつでも募集しています。

小説は書いたことがない、という方も、もちろん経験者の方も大歓迎です。興味があるという方は、文芸サークル山猫の公式SNS「X」もしくはメールアドレスまで、お気軽にご連絡ください。

また、今後も学内のイベントに参加し、部誌を配布しますので、ぜひお越しください。お待ちしております。

☐ yamanekonisho@gmail.com



国際ボランティアサークル Blue Bird

文学部3年 鈴木ヒナノ

国際ボランティアサークル Blue Bird では、現在様々なボランティア活動に取り組んでおります。

東北での復興支援ボランティアに加え、昨年度から新たに千代田区での地域ボランティアと校内の留学生交流会を行っております。

復興支援ボランティアでは、宮城県南三陸町で復興した東北をより盛り上げられるように、漁業のお手伝いや、東京から来る劇団の公演のボランティアをしております。

また、震災遺構を見学して、当時、子供だった頃には、想像もつかなかった惨状を知り、これからの災害での被害を最小限にとどめるための対策など、様々なことを学ばせていただいております。

千代田区の地域ボランティアでは、子供たちが参加できるお祭りの運営ボランティアをしており、留学生交流会では、学内の留学生が日本での



生活に困らないように協力し、東京の観光案内なども行っています。

昨年は、サークルの人数も大幅に増え、飛躍の1年になりました。

本年は、今までのボランティア活動を継続しながら、今回の能登半島地震での被害にあわれた方々に寄り添い、少しでも何かのかたちで復興のお手伝いが出ないかと模索しております。

寄付者芳名

令和5年2月1日から令和6年1月末日までにご寄付いただいた方のご芳名を掲載します。(敬称略)

たくさんの方のご協力に心より感謝し、厚くお礼申し上げます。

(一口千円)

植松 永雄	31文	大山文樹院修	16文
伊藤 淑子	38文	神田 博美	50文
高崎 寛		柴田 浩二	52文
20口		白濱富士夫	54文
野口 徳幸	35文	長島 優香	54文
10口		吉永 成範	55文
塚田 明克	35文	松島 勝	56文
吉良 敦子	37文	荻部 俊一	57文
上田 善達	38文	廣瀬 玲子	57文
小林 公雄	38文	早野 眞石	59文
廣田 克己	38文	内藤 和明	64文
飯塚 力	39文	福田 芳正	65文
國上 明	40文	湯山美保子	68文
持丸 すい	40文	白倉 壱基	80文
佐藤 修	41文	中野 彰子	88文
飯田えり子	43文	5口	
積田 辰也	43文	張明輝 院博	5文
松永 昌之	43文	久保木尉世	35文
宮下 宗樹	43文	太田 信邦	37文
渡邊豊太郎	43文	吉野恵津子	37文
佐賀 敦司	49文	小林 政明	39文
石垣かつみ	49文	潮田 壽郎	46文
		松井 睦	46文

小 熊 隆	53文	清水 登	42文
畑 映子	53文	中村 良子	44文
丸山 裕	57文	高田比呂喜	46文
伊藤 肇	59文	地本 俊哉	48文
原田 泉	59文	斉藤ゆかり	51文
木野のぶ子	61文	荒井 俊郎	54文
川俣 茂	63文	渡邊 良一	55文
木村淳 院修	37文	皆川 典子	80文
相良 恭子	69文	近藤 桂	87文
滝口 明子	77文	1口	
3口		中本 雄希	79文
平岡才次郎	26文	沢 隆彦	51文
山本武司院博	6文	内藤 美紀	51文
本橋 哲哉	46文	蛭海 悠司	51文
三好 行雄	53文	山根 雅彦	51文
今野美喜子	56文	高橋美羽子	52文
谷内 直樹	56文	栗原 明美	53文
江村 春彦	57文	吹原 礼憲	63文
田口 博信	63文	宮本美恵子院博	36文
宮川 望	71文	小田切麻以	77文
星野 正貴	77文	趙 淞	79文
2口		行木 詞子	80文
北口 洋子	35文	佐藤 真一	84文

寄付金のお願い

松苓会では、会の発展のために会員の皆様に寄付金をお願いをしています。

松苓会の事業推進と財源確保のために、一口千円で寄付金を募っています。

ご協力をよろしくお願いいたします。

ホームカミングデー開催

11月3日(金)に4年ぶりに対面でホームカミングデーが、九段2号館2階のラーニング・コモンズで開催された。会場はバルーンアートで飾られ、来場者には、記念品として、USB付ボールペン、朱肉、ねこ松クリアファイルのうちから1点とペットボトルのお茶が手渡され、また、

1年後の自分へメッセージを特設ボードに貼付した人には、ねこ松キーホルダーとねこ松シャープペンシルが進呈された。また、卒業アルバム、の展示、大学紹介ビデオの上映、お帰りがさいボード前での写真撮影等があった。周知期間が短かったが、多数の卒業生の来場があった。

前号の「松苓会報」第70号15頁の令和4年度松苓会特別会計決算書に、「周年事業積立金(支出の部)」脱落など原稿作成時の誤りがありました。正しくは左表のとおりです。茲に訂正し、お詫び申し上げます。

令和4年度 松苓会特別会計決算書

1 周年事業積立金

(収入の部)

令和3年度からの繰越	4,755,967
令和4年度繰入	1,000,000
合 計	5,755,967

(支出の部)

学校法人二松学舎創立145周年	1,000,000
合 計(次年度繰越)	4,755,967

2 松苓会奨学基金

(収入の部)

令和3年度からの繰越	8,950,534
令和4年度繰入	500,000
令和4年度貸与返還金	0
利 息	76
合 計	9,450,610

(支出の部)

令和4年度給付奨学金	0
合 計	0

(収支) 9,450,610 - 0 = 9,450,610 (次年度に繰越)

3 松苓会費積立金(終身会員積立金の名称変更)

令和3年度からの繰越	73,308,013
令和4年度繰入	2,000,000
合 計(次年度繰越)	75,308,013

松苓会新三役紹介

昨年七月に着任しました。
よろしくお願いいたします。

松苓会新たに

副会長 金井 康（41文）



大学入学の
昭和44年は、
大学紛争で入
試を中止した
所もある、そんな時代でした。

二松學舎には9年間通いました。単位取得満期退学です。昭和53年4月に、千田九一も務めていたと聞く私立高校の国語科教諭となり、定年過ぎまで勤めました。今は公立高校の非常勤講師です。

松苓会本部との関わりは、平成26年4月の幹事就任でした。平成30年6月からは常任幹事、令和4年度は総務部会長を務め、令和5年7月から副会長に選任されました。

廣田克己前会長と小林公雄前幹事長による大きな改革を享けて、松苓会は今、支部会を縦系に、同期会を横系とする組織に生まれ変わろうとしています。常任幹事は、部会

業務を皆で分担して執行する立場となりました。その画期的な時期に、三役会の構成員として重責を担うことは分に過ぎますが、地道に微力を尽くして参ります。

複眼的思考で

副会長 星野優子（42文）



1976年
に大学院修士
課程を修了し
て、現在はF

SCグループの会長を務めており、主にマーケティングプロデューサーをしております。

夫の死後、日本料理を引継ぎ社長となり、神田で初めてカラオケボックス店を契機にJR駅ビル内での展開を見据えた靴修理と合鍵店アンテナショップ、まだ駅ビル内になかった花屋店舗、クイックマッサージ店等新たな店造りを企画し、経営してきました。

コンサル業務としては、花の自販機を日赤病院、JR駅ビル等に設置。駐輪場をJR都市開発に、また宝くじ売り場等をプロデュース。

そして省エネ事業として節水・電気料の削減をJR東日本やJR北海道やJR九州、JTB等にもプロデュースしております。

さらにミャンマーやベトナムバン格拉デシユ等とも関わりをもっていますので、松苓会とも経験をいかして複眼的な思考で対応していきたいと考えております。

一致協力で前進を

副会長 大山由美子（47文）



本学を卒業
した昭和54年
4月より令和
4年3月ま

で、両附属高校に勤務。在職中の柏校舎で、文学部1年生必修だった古典基礎の授業を担当させていただいたこと、教職課程センター主催の研究大会に運営委員として活動に参加できたことは、貴重な経験でした。

松苓会では、事業部会に所属、ホームカミングデー等の会員の交流事業に関する事項、学生支援活動や教育支援

に関する事項などを担当しております。今後も部会員とともに、積極的に業務に取り組んでいく所存です。引き続き会員の皆様のご支援ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

母校発展のために

幹事長 高柳幸雄（49文）



卒業後、本
学に奉職し、
教務課に始ま
り、昨年3月

に附属図書館事務部で定年を迎えました。在職42年間のうち長く携わったのは入試業務でした。高校訪問、入試説明会等で多くの卒業生に声をかけていただき、大変お世話になりました。どこへ伺っても卒業生に温かく迎えられたこと、感謝しています。思い返せば、学生時代から面倒見の良い先輩が多い学校でした。

この度、平野光治会長から幹事長を指名され、大役に一旦は躊躇しましたが、一卒業生として役員の皆さんと共に松苓会を盛り立て、母校発展に寄与したいと思えます。

表彰

令和5年11月3日（金）、本部にあつて長きに亘り多大な功績を上げられた廣田克己前会長（38文）と小林公雄前幹事長（38文）に感謝状が贈られました。

第92期同期会説明会開催

2月9日（金）14時より、九段1号館807教室において、今年度卒業予定の4年生の各ゼミナールの代表が集まり、92期同期会説明会が開催された。中原敬二常任幹事の司会進行により、平野光治会長の挨拶に始まり、小西明徳常任幹事による説明があった。質疑応答の後、役員選出となった。立候補を募ったところ、代表幹事に中野棕介氏、副代表幹事に本間ひまり氏、幹事に沼田稔哉氏と宮本寛仁氏の4名立候補があり決定した。2年後の同期会開催に向けてこれより始動する。



事務局だより

令和5年度常任幹事会（第3回）9月9日（土）主な議題

- 1 部会より
- 2 松苓会報について
- 3 卒業記念品について
- 4 その他

（第4回）11月25日（土）主な議題

- 1 部会より
- 2 交通費、業務手当について
- 3 その他

（第5回）1月20日（土）主な議題

- 1 「支部助成費請求文書」送付について
- 2 幹事への「常任幹事会議事録」送付について
- 3 部会より
- 4 その他

支部長交代

香川県（令和5年7月20日付）
新 中條敏雄（50文）
前 大西邦美（40文）
福岡県（令和5年7月31日付）
新 正生英彦（48文）
前 永淵道彦（36文）

北海道（令和5年8月19日付）

新 佐賀敦司（49文）
前 増井義昭（39文）

愛媛県（令和5年9月9日付）

新 村上純也（59文）
前 上田善達（38文）

山形県（令和5年11月25日付）

新 今野紀生（55文）
前 齋藤 裕（38文）

支部の活動の報告については、HPで掲載いたします。

訃報

青山忠一氏 名誉教授

令和5年7月30日逝去享年94

青山先生は、昭和42年本学着任。平成4年4月～同7年3月まで文学部長を務められ、同11年3月退任。同年4月に名誉教授。学校法人二松学舎においては、平成4年7月～平成10年3月まで評議員を務めるなど、本学の教育研究活動に貢献され、平成21年11月3日、瑞宝中綬章を受章されました。

上田善達氏 愛媛県支部長

令和5年9月3日逝去享年77

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

桜花の春、71号をお届けします。第92期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。初々しいOBOGとして松苓会に新風を吹き込まれることを願っております。また元日に発生した能登半島地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表するとともに被災された方々にお見舞い申し上げます。「松苓会支部長だより」は東海・北陸・中部支部特集。厳しい状況下のご寄稿ありがとうございました。次号は関東編。支部長の皆さま、よろしく願います。本報は二松同窓生の交流の場です。ホームページでは支部活動はじめ、本報未収録の情報も掲載。併せてご活用ください。

二松學舎大学(松苓会)

ホームページ
松苓会 E-mail

www.nishogakusha-u.ac.jp
shourei@nishogakusha-u.ac.jp

表紙

「創縁祭 2023」に併せ、対面開催が叶ったホームカミングデー。"おかえりなさい"を合言葉に会長はじめ役員有志が会場に詰め、多世代の卒業生、現役生を出迎えた。

二松學舎
松苓会報
No.71

創 刊 昭和62年12月1日
発 行 令和6年3月15日
編 集 二松學舎松苓会
住 所 〒102-8336
東京千代田区三番町6-16
電 話 03-3261-7408 FAX 03-3261-8914
振替口座 00180-5-160343 (郵便局払込取扱票)
印 刷 (株)サンセイ

